

令和元年度起業支援事業費補助金採択者で開業された方を訪問

令和2年3月17日（火）

訪問して出迎えてくれたのは、夜久野町にお住まいで、J R 上夜久野駅前でカフェを開業された宮崎さん。



ここ、夜久野町は、福知山市になりますが、兵庫県に隣接しており、県境はすぐそこです。駅前ですが、商店街などもなく、店舗はほとんど見当たりません。昼食時に訪問しました。

築100年余りの古民家を改装し「宮 Cafe」を去年12月1日にオープン。

店舗は2階建て。1階には、カウンター、テーブルなど20人ばかりが入れ、2階には、10人ばかり入ってくつろげるスペースがあります。

1階では、5、6人ばかり常連のお客さんが、カウンターでは、スマホでおいさんが電話。のんびりした時間が流れています。



1階の壁の黄色がかった漆喰は、宮崎さんによると、友人と一緒に自前で塗りこんだとのこと。黄色がかった壁と古民家の木の柱とマッチしている。振り子式の壁時計、棚など以前の調度品が置かれており、1950、60年代のア

メリカンポップスが流れています。

ここでのメニューをお聞きすると、京都府内で唯一の火山の灰土で栽培された野菜を使った特製ピザ、地元の黒豆を使ったおにぎりつきのそばやうどんの定食、中深煎のオリジナルブレンドコーヒーなどがあります。

今日は、その特製ピザ、おにぎりつきのそば定食をいただきながら、お話を伺いました。

（起業しようと思った動機）

宮崎さんは社会福祉施設で職員をされていたのですが、その頃から、施設に入所する前で介護が必要でない人の居場所づくりがしたかったとのこと。そのために、起業する5年ほど前から、セミナーや起業されている方の店舗めぐりをされていました。

このカフェの開業にあたっては、福知山市商工会の経営支援員（※中小企業応援隊員）が伴走支援しております。経営支援員はここ夜久野町の出身で、支援員が子どもの頃からの顔なじみで、メニューの試食もしていただいたそうです。（注：中小企業応援センターホームページ内の中小企業応援隊にリンク）

また、宮崎さん自身も知らなかったとのことですが、カフェに来ていただいた95歳の男性客から聞いたそうですが、この場所は、以前は、国鉄上夜久野駅から引き込み線があり、ここは運送屋で、この従業員だったとのこと。

このように、地元なのに日々新しい発見があり、新型コロナウイルス感染症で若干お客さんも減っておりますが、地元の高齢者のお客さんも多く、手応えを感じているとのこと。

（今後の抱負）

地元のどなたもくつろげるようなふらっと立ち寄れる場所づくりを続けつつ、カフェの隣の空き地に、ドッグランを作って、都市住民との交流をしていきたいと夢は広がります。

サイクリングしている人が寄ってくれて、気に入ったのでインスタすると言ってくれたこともあって、インスタを、息子さんや友人の手ほどきを受けて、作成。主人お手製のサイクルスタンドも設置しました。

定期的に占い、ギター、ハーモニカコンサートなどイベントを開催。ホームページなども参照のこと。

<https://m-okatte.com/>

両丹日日新聞記事 <https://www.ryoutan.co.jp/articles/2020/01/89869/>